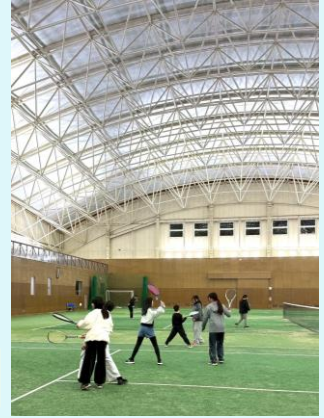


## 地球市民学科4年 森 美咲さん（チャレンジ支援奨学金）

### －奨学金の支給対象となった活動内容について教えてください。

福島県大熊町の子どもたちに向けたソフトテニス体験教室の企画・運営に取り組みました。東日本大震災の影響により、大熊町には実質的に習い事場が失われていることを知りました。そして、大熊町周辺は震災前までソフトテニスの強豪地域だったこと、私自身が長年続けてきたソフトテニスの経験や、小中学生への指導経験を活かして、大熊町の子どもたちに新たな体験の場を届けたいと考えたことが活動を始めるきっかけとなりました。月に一度現地を訪れ、小中学生を対象に、「体を動かす楽しさ」や「できた」という成功体験を感じてもらうことを大切に活動しました。また、教育委員会や学校と連携しながら、安全面や運営面に配慮し、安心して参加できるよう努めました。

保護者の方の協力により開催することができた、隣町・富岡町にある「富岡ふれあいドーム」でのテニス教室の様子



### －活動を終え、今どのように感じていますか。

活動を通して印象に残っているのは、子どもたちの変化です。最初は陰で見ていた子や、緊張していた子どもたちが、次第に自らボールを追いかけ、笑顔でプレーするようになっていきました。「もう一回やりたい」と声を上げたり、友達を誘って参加する姿も見られ、小さな変化の積み重ねに大きな喜びを感じます。その姿を見て、体験の機会が人の意欲や自信につながることを実感しています。

そして、当たり前前の日常が失われた中でも、人と人とのつながりを大切にしながら、自分にできる関わり方を考え続けています。継続して通う中で、保護者とも関係が生まれ、活動が少しずつ地域に根付いてきました。今後も自分にできる形で活動を発展させていきたいと考えています。

同じ日に大熊町を訪れていた大学生とともに、落下がゆっくりな風船を使い、「できた!」という感覚を大切にしながらの指導



### －この経験を今後どのように活かしていきたいですか。

本活動を通じて、環境によって体験機会に差が生まれている現状に強い課題意識を持つようになりました。実際に大熊町で子どもたちと関わる中で、ほんの小さなきっかけが挑戦する意欲や自信につながる様子を目の当たりにし、機会の有無がその後の可能性に大きく影響することを実感しました。今後は、誰もが新たな一歩を踏み出せる機会を届ける仕組みづくりに関わりたいと考えています。自ら企画し、周囲を巻き込みながら活動を形にしていく中で培った行動力や調整力に加え、相手に寄り添いながら関係性を築く力も、社会の中で活かしていきたいです。出会いや経験に真摯に向き合いながら、自分にできる形で社会に価値を還元し続けていきたいです。

### －チャレンジ支援奨学金を目指す後輩たちへ向けてメッセージやエールをお願いします。



生徒と笑顔の1枚。写真右が森さん

私の将来の目標は、人の可能性を広げるきっかけを提供できる存在になることです。今回の活動を通して、小さな体験が人の自信や選択肢を広げることを実感しました。大熊町で、最初は一歩踏み出せなかった子どもが回を重ねるごとに自ら挑戦する姿へと変化していく様子から、「きっかけ」の持つ力の大きさを強く感じました。今後は、環境に関わらず誰もが新たな一歩を踏み出せる機会を届けていきたいと考えています。「チャレンジ支援奨学金」は、その一歩を後押ししてくれる制度です。自分の関心に正直に向き合い、ぜひ挑戦してみてください!

ラケットの持ち方や基本フォームを指導

